

特集 多様化・複雑化する学生支援の現代的課題（趣旨）

科学的真理の探究と教養教育を主軸に据えてきた高等教育は、20 世紀の間に急激に拡張を見せ、大衆化してきた。高等教育に対する社会的需要はますます高まりを見せ、知識基盤社会において大学が担うべき役割、求められるニーズは一層複雑化している。

1998 年に出された「ユネスコの高等教育世界宣言」によれば、高等教育の中心的使命とは、高い水準での教育・研究のみならず、学生に倫理観と社会的責任を醸成しながら、社会全体の持続可能な発展や改善に寄与することであるとしている。そのために高等教育は、入試時のみならず在学時の学生に対しても、年齢やジェンダー、国籍・民族、障害の有無などによる非合理的な差別対応が生じないよう、あらゆる学生に公平に学習機会へのアクセスを保証しなければならない。

半世紀前には 2 割程度だった日本の大学進学率は今や 5 割を超え、学生のあり方も多様化している。中等教育から高等教育への接続、高等教育から社会への接続を円滑化するため、そして大学における教育や生活に学生を適応させ、効果的な学びを提供するため、各種のカウンセリングやアドバイジングの体制が組織化されるようになった。同時に、教職員だけでなく、大学外部との連携・協働も含めた学習環境の構築が重視され、キャンパス全体にラーニング・コミュニティを形成することが目指されている。

本号では「多様化・複雑化する学生支援の現代的課題」をテーマとして、学生に対する学習支援、キャリア支援、経済支援や生活支援、グローバル化や多文化共生に関わる諸問題への対応、心身を含めた健康支援、特別な配慮を要する学生への支援など、多角的な視点から、現代の高等教育における学生支援の現状と課題に迫っていきたい。